

令和 6 年度事業報告

1 全体総括

(ア) 事業運営

令和 6 年度事業について、各事業は利用者からの要望に応えつつ質の高いサービスを提供することができた。質の高いサービスを提供し続けることができるは、日頃のスタッフの自己研鑽によるものと感謝している。令和 5 年度に計上していた特別損失については、豊川市をはじめとする多くの方のご尽力により、返還額の見直しが行われ返還金が不要になった。皆様に感謝申し上げるとともに、今後とも気を引き締めて事業運営を行っていききたい。

福祉をめぐる情勢は、人材の確保と支援の質の維持が焦点となってきた。グループホームでの虐待事案など社会を揺るがす事件が身近なこの地域でも起こっている。安全安心な地域生活を保障するはずの福祉サービスが、利潤を求めるばかり、社会的な弱者が被害を受ける事態を見過ごすことはできない。しかし、これは対岸の事件ではなく、他業種の人件費の高騰もあり、利潤どころか人件費をあげないと人材を確保できない事態が生じている。支援の質を維持するには、優秀な人材の確保と人材教育が不可欠である。教育には時間とお金がかかる。国も質の確保のために、義務化している研修が増えているが、事業所に対する費用負担は増すばかりである。人材育成や人材の確保に費用が掛かることをぜひ理解してほしいと願う。こうした情勢の中、地域の中で生き生きと過ごすお手伝いを 1 年実践することができた。多くの利用者・スタッフの皆さんと作り上げてきた 1 年の実践は他に誇れるものである。

運営に関しては、まだまだ課題がある。とくに、業務の委譲、委任に関してより明確に進めていく必要性を感じている。それぞれの役割を明確にしキャリアアップしていけるように体制を整えていきたい。

事業の経営状況

① 過去 5 年間の純利益の推移

目標としていたゆうサポートセンター単体での黒字化は約▲130 万円となり黒字化することはできなかった。

	2020	2021	2022	2023	2024
経常収益計	¥ 150,384,347	¥ 162,669,039	¥ 156,764,718	¥ 151,638,725	¥ 158,844,751
経常費用計	¥ 148,015,500	¥ 156,129,023	¥ 164,767,198	¥ 151,623,261	¥ 157,502,427
当期純利益	¥ 2,368,847	¥ 6,540,016	¥ -8,002,480	¥ 15,464	¥ 1,269,290
人件費	¥ 119,675,904	¥ 126,405,515	¥ 118,568,050	¥ 118,190,292	¥ 121,884,456
利益率	1.6%	4.0%	-5.1%	0.0%	0.8%
人件費率	79.6%	77.7%	75.6%	77.9%	76.7%

事業収益に関しては上記の通りとなっている。処遇改善費の 1 型を取得しているが、処遇改善費の比率が上がる割合に比べて、基本報酬の上り幅は少ない。基本報酬に合わせていくつかの加算を取得して経営の安定化を図りたいが、加算取得による事務の煩雑化も課題となっている。安定的な運営の

ためには、利用者増ができる事業所は利用者増に努め、目標数値を75%以下に定めて効率的な人員配置の運営が課題である。

(イ) 人づくりまちづくり部門

人づくりまちづくり部門では、地域の啓発・活性化を目的に、講師派遣・アドバイザー派遣・学習会・茶話会・サークル活動として以下の事業を行った。

① 講師派遣・アドバイザー派遣・講演会等

- ・ 豊川市子育て支援課ティーチャーズトレーニング 全5回
- ・ 豊川市子育て支援課 児童クラブフォローアップ研修
- ・ ジョブシティカレッジ 障害福祉サービス初任者研修 2回
- ・ 強度行動障害支援者養成研修(基礎・実践)講師
- ・ サービス管理責任者基礎・更新研修 ファシリテーター
- ・ 中核的人材研修サブトレーナー
- ・ 光明学園 虐待研修 講師
- ・ 標準的な支援を意識した支援の体験研修講師
- ・ 放課後等デイサービス連絡会冰山モデル研修講師
- ・ 強度行動障害フォローアップ研修講師

② ゆうキャラバン隊

豊川市社会福祉協議会の福祉実践教室の学校からの派遣依頼により今年度は計 2 校 2 回の派遣を行った。

10月17日 中部小 5年生 11月12日 国府小 5年生

③ まなびん

年 8 回 ZOOM とゆう本部のハイブリットで開催した。障害理解や支援の基本的な考え方を学ぶ会として開催した。会報が季刊誌となり案内ができず、ゆうの新人スタッフのみの参加となった。

開催日:6月19日、7月17日、8月21日、9月18日、10月16日、11月20日、12月18日、
1月22日

④ お膳立て・ペアレントトレーニングフォローアップ講座 年 5 回

NPO 法人ゆうの学習会に以前参加された方を対象にフォローアップ講座を開催した。

開催日:7月16日、9月10日、11月12日、1月14日、3月11日

⑤ しゃべりば ゆうの庵

ゆう親の会「クローバーの会」主催で「しゃべりば ゆうの庵」を4回開催した。

- ・ 6月25日 「ほわっとゆるトーク」 5名参加
- ・ 9月19日 「支援学校～卒業後(成人期)の暮らしとお金」 9名参加
- ・ 10月8日 「不登校・登校しづり」 1名参加

- ・ 12月17日「発達凹凸のある子の小学校の普通級・支援級」5名参加

⑥ きょうだいの会

きょうだいの会では障害や発達につまずきのあるきょうだいがある子どもたちが、普段できないいろいろな体験をし、きょうだいのことを普通に話せる友達作りを目的としている。今年度は3回計画したが、参加者が集まらず開催できなかった。

⑦ 市民活動団体の事務局委託

市民活動団体の事務局を受託し電話取次、メール管理、プロジェクターなどの貸し出し、印刷などを行った。

- ・ TEACCHとよかわ
- ・ 穂の国 PECS サークル

⑧ 広報誌の発行

ゆうゆう通信を年4回発送した。

(ウ) 相談部門

相談部門では、指定の相談支援事業所と私的相談を行った。

① ゆう相談支援事業所

慢性的に相談員が不足しておりニーズを受けきれない状況はあるが、丁寧で質の高い相談支援を行うことができている。

② 私的相談(福祉相談・個別療育相談・家庭療育相談)

保護者の困りごとから、児童の当事者の相談など幅広い相談援助を行った。現在5名のスタッフが活動している。

福祉啓発		令和5年度	令和6年度
個別療育相談(対面)	回数	72	58
個別療育相談(ZOOM)	件	2	0
個別療育相談(電話)	件	8	3
家庭療育指導(訪問)	回数	0	0

(工) 委員会活動

① 虐待防止委員会・身体拘束廃止委員会

虐待防止委員会で権利侵害に関する検討事項。身体拘束時の3要件の確認などを行った。
本年度は虐待通報が1件あり、スタッフの意識をさらに高めていきたい。

- ・ 現場責任者会議内で年12回開催
- ・ 身体拘束時の内容の確認 身体拘束等(個室誘導を含む) 年42件(どーや41件、ヘルパーステーション1件)
- ・ 虐待通報 なし

② 研修委員会

今年度研修委員会未開催

今年度は年12回あったスタッフ全体研修を年6回に改め、スタッフの負担軽減を図った。支援技術等の研修は新人研修と各事業所での研修とした。各種外部研修の派遣や参加費補助を行った。

スタッフ全体研修

- 4月 発達障害について・給与規定の改定について・ゆうキャラバン隊の募集/事業所紹介:相談
- 6月 虐待防止研修(一般向け・管理者向け)/事業所紹介:いまーじゅ
- 8月 感染症、BCP、安全衛生/事業所紹介:じょいん
- 10月 防災研修、BCP、避難訓練
- 12月 パレンツトーク/事業所紹介:とことこ
- 2月 ゆうのこれまでとこれから/事業紹介:どーや

その他 サービス管理責任者研修 虐待防止研修 発達支援基礎研修 自閉症の基礎研修 など

③ 安全衛生委員会

今年度安全衛生委員会の検討内容は現場責任者会議の中で行った。令和6年4月から安全計画の作成義務化にあたり安全計画の作成検討を行った。また、「食中毒及び感染症対策に係る指針」の作成義務化に当たり、作成及び感染症対策委員会の開催を各事業所で行うようにした。

- ・ 研修 感染症 BCP

④ 防災委員会

今年度、各事業所の防災計画の見直しと備蓄物の確認を行った。

- ・ 研修 防災研修(スタッフ全体研修) NPO 法人ゆうの BCP の確認など

(オ) 事故・苦情・法令順守等について

① 事故報告について 令和6年度 23件

支援中の他害(利用者同士、成人施設の利用者さんが児童発達支援の利用児童・保護者に他害)の報告が一番多く、次に車の破損・事故に関することが多かった。その他、受給者証の期限切れ、給与の支払いミス、利用者のけが、など。

② 苦情報告について 令和6年度 3件

今年度の苦情としては、ケアの内容や連絡調整にかかわることであり、利用者より要望をお聞きした上で説明を行い了承を得ている。ひまわり園 2 件 ヘルパーステーション 1 件

③ 法令順守等について

具体的にはコンプライアンス管理規定とコンプライアンスマニュアルを作成し周知を図った。また、機能していなかった内部監査規定を見直し、内部監査体制の計画を実行に移した。

(力) 法人本部

法人本部事務局では、法人運営のために労務・経理の管理、福祉サービスの請求業務、その他会員サービスの庶務などを行った。現場責任者会議及び法人会議などの議事録作成や参加案内などの業務を行った。

① 会員動向 令和6年度会員の動向は以下の通り。(令和7年3月31日現在)

近年会員数の減少がみられるため、ゆうの活動を知っていただき、会員仲間を増やしていくことが課題である。なお、公的な福祉サービスのみの利用者は会員数に含まれていない。

会員種別	令和5年度	令和6年度
正会員	36名	34名
利用会員	93名	74名
賛助会員	46名	51名

令和6年度利用会員内訳（個人会員 52名 家族会員 17名 団体会員 5団体）

② 会議等の開催

理事会の開催 5月25日、8月26日、10月21日、12月22日、2月25日

総会の開催 6月1日予定

2 各福祉サービス事業の事業所ごとの報告

(ア) 相談部

① ゆう相談支援 事業所（特定相談・児童相談）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 荻野ます美）

令和6年度は、常勤1名と非常勤兼務1名の2名体制で相談支援を行った。

ここ数年の傾向として、登校渋りや登校していないお子さんの相談が増えている。令和6年度より、豊川市でも放課後等デイサービスの利用時間が緩和され、平日の日中(通常学校にいる時間)利用も算定できるようになったことで、放課後デイが登校していないお子さんの居場所の一つにはなったものの、学校の環境は変わらないため、問題の根本的な解決にはなっていない。また、特別支援級での担任の対応があまりにも不適切で、保護者が疲弊する事例が複数あり、対応に苦慮する場面があった。そんな中で、小学生の頃から支援してきた不登校や引きこもりのお子さんたちが、数年たって、自分から学校に行くと言いだしたり、外出できるようになっていくケースが複数あり、粘り強く保護者に関わり方や環境調整の仕方を伝えて伴走していく事の大切さを再確認できた1年となった。

ゆう相談支援		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
計画作成（新規）	件	2	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	6
計画作成（更新）	件	2	2	4	3	3	5	7	6	6	6	1	2	47
計画作成（変更）	件	1	2	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	7
モニタリング	件	29	25	21	28	22	24	18	13	18	17	25	27	267

令和5年度 計画作成64件 モニタリング283件

令和6年度 計画作成 60 件 モニタリング 267 件

令和5年度収支増減額 5,571円

令和6年度収支増減額 840,628円

■ 今年度の成果

- ・ 小学校低学年からずっと登校していなかったお子さんが、進学が近づく中2の後半あたりから本人の意志で登校し始め、出席日数を満たして進学した。また、学校に登校しないまま卒業して、アルバイトを始めたお子さんもいた。親御さんが登校刺激することなく、自宅での機能的な活動ができるように辛抱強く相談援助し続けた成果だと言える。
- ・ 放課後デイに毎日行くのが当たり前と言う最近の風潮の中、小学校入学時に本人の特性を踏まえて放課後デイを利用するか否かを考えられるように保護者支援をしてきた結果として、放課後デイは学校に慣れてから考える、または、週1～2日くらいから試すという保護者が数名でている。
- ・ 保護者支援を丁寧に行ってきた結果として、保護者が納得して前向きに計画相談を終了できたケースが5件あった。
- ・ 事務局の協力を得て、モニタリング報告書を関係機関と共有したり、担当者会議の日程調整等を効率よく行うシステムを構築することができた。

事業所の課題

- ・ 現在荻野が担当しているケースを引継ぐ常勤の相談支援専門員がおらず、5年後(荻野定年後)に事業所をどのようにしていくかの方針が立っていない。
- ・ 18歳を超えたご本人や家族から計画相談の継続を希望されるケースが増えているが、対応が追い付いていない。
- ・ エクセルで自作したフォームで申請書や報告書等を作成しているため、ファイルが開かない、入力したデータがいきなり消えるなどの不具合が増えている。

(イ)生活支援部

① ゆうヘルパーステーション(行動援護・移動支援)

■ 令和6年度の実施総括 (現場責任者 門之園由美)

R6年4月より、人員と収益確保の体制を整えるため事業を休止し、再開のための準備を行ってきた。休止期間中、他事業所への移行のために支援内容の引継ぎ・支援に同行して引継ぎを行ってきた。そのことにより、事業所間での横の繋がりができ、利用者さんの余暇の充実にも繋げることができた。その一方で他事業所の利用はされずに、事業の再開を待って下さっていた方には負担をかけてしまうことになった。

R6年8月より事業を再開。

予定調整の仕方を変更したことで調整事務は減った一方で、変更があった時の対応が遅れてしまうことがあった。支援については、買い物やイベントなど利用者さんの希望を聞きながらお出かけを行ってきた。

ヘルプ実績		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
行動援護	回数					16	25	28	34	31	27	23	33	217
〃	h					34.5	61.5	60.5	79.0	72.0	64.5	72.5	74.5	519
移動支援(青)	回数					22	26	23	24	21	19	31	23	189
〃	h					76.0	74.5	73.5	68.5	79.5	67.0	62.0	58.0	559
移動支援(児)	回数					1	16	8	6	1	3	0	1	36
〃	h					1.0	8.0	4.0	3.0	0.5	1.5	0.0	1.5	20
計	回数	0.0	0.0	0.0	0.0	39.0	67.0	59.0	64.0	53.0	49.0	54.0	57.0	442
	h	0.0	0.0	0.0	0.0	149.5	203.0	193.0	211.5	204.5	180.5	188.5	189.5	1,520

令和5年度収支増減額 ▲4,620,540 円

令和6年度収支増減額 ▲2,892,150 円

■ 今年度の成果

- ・ 他事業所への移行、引継ぎを行う中で事業所間での横の繋がりができた。
- ・ 支援に入れる事業所が増えたことで、利用者さんのお出かけ回数や関われる人が増え利用者さんの余暇の充実に繋げることができた。
- ・ 平日の枠で新規受け入れ2名。

■ 事業所の課題

- ・ 終日お出かけ希望の方については土日から平日の変更を提案したが、希望者も少なく平日の空き枠を埋めることができなかった。
- ・ 他事業所へ移行したことで平日利用者の利用回数が減ったり、なくなったことも赤字に繋がった。
- ・ 兼務スタッフが多く事務作業の分担に偏りができ、滞ってしまうことがあった。
- ・ ヘルパーが集まっての会議の場を設けることができなかった。

② ゆうショートステイ とれ☆きゃん（短期入所）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 豊田和浩）

令和6年度は、利用者の新規受け入れと、スタッフのスキルアップに力を入れてきました。短期入所支援は、女性スタッフの配置を行い、月1回の女性の日を月2回に拡大した。また、新規の受け入れを3名行い、1日の稼働率を上げることに取り組みました。一方で、定期利用者のうち2名がグループホームへの移行をしたことで、稼働率が下がりその補充がうまくできていないことも課題である。また、施設管理やスタッフ管理のため日勤帯のスタッフを常勤配置したことで、急な職員のお休みにも対応できるようになったが人件費が増加してしまっている。1日当たりに受け入れ人数を増やしていく取り組みが必要である。

とれ☆きゃん		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者日数(短期入所)	日	63	71	71	74	58	66	70	69	68	65	70	74	819

令和5年度利用状況 短期入所 707日 日中一時181名

令和6年度利用状況 短期入所 819日

令和5年度収支増減額 ▲2,687,173 円

令和6年度収支増減額 ▲5,157,032 円

■ 今年度の成果

- ・ 3名の新規利用者の受け入れを行うことができた。
- ・ 短期入所利用者のグループホームへの移行を応援することができた。
- ・ 施設的环境整備に努め、きれいで使いやすいとれ☆きゃんになった。
- ・ 女性の泊りの日を月1回から2回に増やすことができた。

■ 事業所の課題

- ・ 職員の確保（特に女性職員）
- ・ 1日3名の利用者を受け入れる体制
- ・ 業務マニュアルの整備

③ ゆうサポートセンターどーや（生活介護）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 岡部祥子）

週1日利用者さんが1名増え、利用者さん10名で実施。新規利用者さんは、ヘルパーステーションからの引継ぎの利用者さんであり、内容も大きく変わらないため、スムーズに移行ができた。ただ、もと

もと在宅の方で、週1利用の利用時間も2時間と短時間であるため、収入の点では大きく変わってはいない。

令和7年度に一人新規利用者さんが増える予定であるため、そのことを想定し冬に配置換えを行った。部屋が狭くなってしまった方もいるが、不満や不安定さもなく過ごせている。それから、夏のヘルパーステーションの開所再開に伴って、どーやの活動としてきたものをヘルパーステーションの支援に移行した。両方のサービスを利用している利用者さんには両事業所から、利用者さんご本人に説明した上でご納得して頂き、こちらスムーズに移行できたと感じている。かつ、ヘルパーステーションとの共有が必要なところも更に浮彫りとなり、利用者さんにとって必要なものを提供できるよう共有しながら進めていくことができ、今後も協力しながら行っていきたいところである。

夏季体験事業では多くの申し込みがあった。他部署を利用していた児童さんが大きくなられ、ゆうのサービスなら、ということで利用希望の方も多くみえ、他部署が築き上げた信頼と実績を感じ、気が引き締まる夏であった。

どーや		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	人	159	166	150	172	140	147	165	157	146	147	143	155	1847

令和5年利用状況 延べ1715名

令和6年度利用状況 延べ1847名

令和5年度収支増減額 5,178,758円

令和6年度収支増減額 4,319,728円

■ 今年度の成果

- ・ 引き続き、祝日営業を数日行い、全員の方が祝日も変わりなく通われた。そのため、生活リズムの崩れや不安定を招くことなく、利用者さんが安定した1年を過ごすことができた。また、本来利用曜日ではない方も、併用先が祝日休みの方を受け入れることで、ご本人の生活リズムの安定につながり、ご家族からも感謝のお言葉を頂いた。
- ・ スタッフが少し増えたこと、見守り時の時間を利用して、準備片付けを早めにすすめる意識をもつことで、夕方MTの時間を作りだすことができた。
- ・ 新しい活動にトライすることがいくつかできた。新しい外出先も増やすことが出来た。内容も、食べ物ではなく、自分の身につけるものを買うという買い物イベントを実施。洋服や靴下などを自分で選んでご購入。次の日には身につけて来所してくださり、本人もいい顔をされていた。ご家族からもご好評の声をいただいた。

■ 事業所の課題

- ・ パニック状態になってしまうと他利用者さん、スタッフに対して他害を行う方がいる。そういった状態になったときに力の強い利用者さんを止められるスタッフが限られることも多く、又、他害に関しては怪我をしてしまうスタッフもあり、スタッフの精神的重さの軽減が必要。
- ・ 利用者さん同士、利用者さんとスタッフの相性問題がいくつかでてきており、室内では同室で出会わないようにしている。大きな課題は特に車と一緒に乗れないことで、送迎・外出もほぼ毎日ある中で、配車に苦慮している。

④ 福祉有償運送（責任者 豊田和浩 担当：宮地銀子）

外出時の移動手段や送迎加算対象外の運送について車を使った移送サービスを提供した。家族の送迎や事業所の送迎が使えない場合に限り移動困難者の会員サービスとして行った。主に、事業所への送迎。移動支援・行動援護の外出支援時の駅や目的地までの移送を行った。

福祉有償運送（福祉有償運送）		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
運送距離	km	52.2	40.6	214.2	184.0	110.0	374.6	243.0	265.5	216.2	135.4	223.5	326.2	2,385.4
運送件数	件数	9	7	27	24	16	50	36	32	36	26	30	40	333

令和5年度 移送距離 2587.7 km 件数 476件

令和6年度 移送距離 2385.4 km 件数 333 件

令和5年度収支増減額 ▲188,839 円

令和6年度収支増減額 ▲105,923 円

（ウ） 発達支援部門

① 多機能事業所ゆうサポートセンター（ゆうサポートセンター2 階）

多機能事業所ゆうサポートセンターとして、児童発達支援事業所「とことこ」「いまーじゅ」放課後等デイサービス「ほっとそとと」保育所等訪問支援事業「じょいん」の事業を行った。

A) ゆうサポートセンターとことこ（児童発達支援）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 十都敦子）

令和6年度は、利用児17名（内、年長児7名、年中児9名、年少児1名）

統一アセスメントの導入と職員間の情報共有強化、現場責任者ではなく行事の組み立てを現場職員が行うスタイルを取り入れ、子どもの成長に合わせた支援体制の基盤を整えた。保護者会では保護者同士の経験を共有する時間を多く取り入れた保護者支援の充実、移行支援に関わる関係機関との連携を引き続き強化した。1日10人定員を可能な限り満たすことで収入増加も実現し、組織基盤の安定化が行えた。

とことこ		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	人	146	168	174	183	154	161	193	173	174	168	163	171	2028

令和5年度 延べ利用人数1918人

令和6年度 延べ利用人数 2028 人

令和5年度収支増減額 ▲126,712 円

令和6年度収支増減額 2,629,340 円

■ 今年度の成果

- ・ クラスごとの職員が日常的に情報交換を頻繁に行い、それぞれの気づきを共有することで子供の成長の変化に対応し、成長を促す支援が多くできた。
- ・ 統一したアセスメント資料を整え、アセスメントの実践と記録、それに基づいた目標設定を全スタッフが経験した。
- ・ 支援計画での目標を朝 MT を通して全職員に共有し、目標を意識した支援を行うことができた。

- ・ 卒園式では、各クラスの職員で流れや内容を話し合うことで子供たちにとって安心し分かりやすい式となり、笑顔が多く見られる式となった。
- ・ 保護者会で、日頃の子育てでの思いや経験などをシェアする茶話会を増やすことで、保護者の方にとって励まされる機会となったとのご意見をいただいた。
- ・ 基幹相談センター、相談支援員、保育園、幼稚園、学校、教育委員会の先生方、保育所等訪問支援員と連携を密にし療育の共有や丁寧な移行支援を行うことができた。
- ・ 利用児の受け入れを可能な限り行い、収入増に繋がった。
- ・ 加算対象となるサービスの整理を行い、確実に申請を行うことができ、収入増に繋がった。

■ 事業所の課題

- ・ 統一アセスメント記録の定着と支援への活用の仕方。
- ・ 自由遊び、設定遊びの時間の支援のスキルアップ。
- ・ 大人との個別の学びの時間、ねらいと設定の工夫された集団活動の充実。
- ・ 全職員で行う保護者支援。
- ・ 業務の効率化、時間を意識した業務への取り組みにより、持続可能な体制構築。

B) ゆうサポートセンターいまいじゅ（児童発達支援）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 鈴木弥聡）

令和6年度利用親子は16組。1歳児～年長児まで幅広い年齢の利用があった。

今年度も夏には定員がほぼ埋まり、多くの方に個別療育を提供することができた。

実際の姿や保護者から聞き取った内容を元に個別の活動を設定。芽生えを拾い、「分かった」「できた」「楽しい」を増やす発達支援を実施した。

親子で通園することにより、我が子の得意・苦手・やりとりの仕方・関わり方のコツについて保護者が気づき、家庭に活かせることを目指して保護者支援を実施した。親子に合った家庭用プログラムを使うことにより、いまいじゅでの気づきを家庭にどう活かすと生活がより過ごしやすくなるかを一緒に考えた。年度末には保護者より、「子どもだけでなく母自身の成長も実感できた」との声を多く頂くことができた。

いまいじゅ		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	人	28	35	39	48	42	49	54	46	55	48	46	48	538

令和5年度 延べ利用人数 559人

令和6年度 延べ利用人数 538人

令和5年度収支増減額 470,817円(3事業所合計)

令和6年度収支増減額 ▲807,741円(3事業所合計)

■ 今年度の成果

- ・ 報酬改定に伴い支援計画、記録の仕方等の整備を行った。必要な内容・項目を記載し、且つ日々の支援と事務業務が効率よく回るような仕組みとなるよう工夫した。
- ・ 支援計画の5領域を明確化することによって、いまいじゅの強みであるコミュニケーション支援の受容・表出、両方をより整理して捉え、保護者と共有することができた。

- ・ 新人スタッフの人材育成に取り組んだ。
- ・ スタッフが未永く働き続けられる為、活動内容を工夫し最低限の人数でも支援できるようにする、フォローに来てもらうスタッフの時間を最小限にするなど、全員が無理なく勤務する中で支援が回るように見直しを行った。結果、どのスタッフもほぼ希望通りの休みを取ることができたように感じる。
- ・ 外部研修へ積極的に参加した。家庭の都合で研修の日時によって参加が難しいものも多くあるが、無理のない範囲でスタッフ同士誘い合い、学びを深めることができた。

■ 事業所の課題

- ・ 5領域「運動・感覚」の項目を事業所内で6か月以内に達成できそうな取り組み。利用児の姿に合わせて計画を立てているが、いま一じゅの中で実施可能な取り組みが見つけにくいケースが多い。
- ・ 今年度はシートに記載して共有検討することが減ってしまった。保護者と一緒に書いて整理しながら考えていくケースもあったが、保護者が「書いて良かった」との実感までつなげることができなかったように思う。

C) ゆうサポートセンターほっとそっと(放課後等デイサービス)

■ 令和6年度の実施報告（現場責任者 豊田和浩）

令和6年度は現場責任者やスタッフの異動により新たなスタッフ体制で事業に臨んだ。昨年度の経験スタッフが少数という環境の中、スタッフの奮闘でほっとそっとらしい支援を継続できた。ほっとそっとの事業は一人ひとりに寄り添い障害特性に応じた環境の中で、対人関係や自己肯定感をはぐくむ活動である。その対応は座学だけではできず OJT と日々のやり取りの経験で磨かれるものである。スタッフの入れ替わりに対応したマニュアルや研修資料が役に立った。新施設に移り今までやってきた活動を整理しスタッフの負担が少なく行える中身づくりを行った。利用者の満足度は高かったので良い支援ができた。スタッフの体調不良などにより職員が安定しない期間が発生した。夕方の支援者の確保は課題である。

ほっとそっと		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	人	106	94	106	120	91	103	124	111	110	110	105	115	1295

令和5年度 延べ利用人数 1314 人

令和6年度 延べ利用人数 1295 人

令和5年度収支増減額 470,817 円（3事業所合計）

令和6年度収支増減額 ▲807,741 円(3事業所合計)

■ 今年度の成果

- ・ 利用できる場所が増え年度途中での卒業や、子どもたちの成長を後押しすることができた。
- ・ 保育所等訪問支援や相談支援事業所と連携して子どもの支援にあたることができた。

■ 事業所の課題

- ・ スタッフの安定的な勤務の継続

- ・ 個別支援計画などの管理体制の強化
- ・ 面談時の相談支援加算の獲得
- ・ 利用待機の方に対するフォローと新規利用者の受け入れ

D) ゆうサポートセンターじょいん（保育所等訪問支援）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 太田章乃）

令和6年度は福祉サービスの報酬改定などに伴い、学校現場にもご協力頂かないといけない点や書類整備の必要があり、事業に従事している職員が他事業所兼務の非常勤1名で対応していることから、対応が後手に回り時間が掛かったことや、学校側も先生方の働き方改革で電話連絡できる時間帯が限られて、訪問の予定調整に時間を要す等、複数の要因も重なり、訪問件数を伸ばすことができなかった一年でした。

じょいん		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延べ利用者数	人	3	17	15	7	0	15	15	10	1	7	10	1	101

令和5年度 延べ利用人数 123人

令和6年度 延べ利用人数 101人

令和5年度収支増減額 470,817 円(3事業所合計)

令和6年度収支増減額 ▲807,741 円(3事業所合計)

■ 今年度の成果

- ・ 「小学校との連携を丁寧に進めていくと共に学校教育課との更なる情報共有の強化に努める」: アンケート結果からも一定数の小学校との連携を強化することはできたと考えており、また学校教育課との情報共有も各学期に一度行うなど、関係性の強化を図ることができたと考えている。その一方でこれまで関係を作ってきた先生方がごっそりいなくなってしまう学校でトラブルが起きた際にうまく関係を作ることが出来なかった学校もあり、小学校との連携の在り方の難しさを感じた一年であった。
- ・ 「訪問支援のマニュアル作りを進めていく」: 昨年に引き続き書類の整備を進め、PC内のファイルの整理も行い、書類に関しての整備を進めることはできた。ただ訪問支援の実施方法や内容に関しては、ケースバイケースでもあるため、マニュアル化は困難だと感じた。
- ・ 「必要なお子さんには他事業所のスタッフに同行の機会を図る」: 令和6年度はほっとそっとも利用しているじょいん利用児童の訪問に、数回ほっとそっと職員に同行してもらうことができた。学校現場での子ども達の違った一面や置かれている環境を肌で感じてもらうことができ、地域の中で生活することをイメージしやすくなったと感じている。また学校の先生との連携の仕方や訪問の仕方などを見てもらえ、今後の訪問支援員の拡大にも繋げられる機会となったと感じている。
- ・ 「限られた時間の中で効率よく支援を届ける工夫を行う」: 訪問件数は諸事情もあり、件数そのものは限られてしまったが、効率よく支援を届ける工夫はできたという。一方で、今年度は訪問件数が限られたことから、必要なところ全てには支援を届けることができなかったのではという反省もある。

■ 事業所の課題

- ・ 昨年度と同様、訪問支援員が一人で業務を行っているため、当該訪問支援員に何かあると訪問そのものが実施できなくなってしまう脆弱性をはらんでいることと、今後訪問件数を伸ばしていくためには、訪問支援に充てることが多い時間と訪問予定を入れられる時間がかぶるが、それを一人でこなしていくには限界を感じている。

② 豊川市児童発達支援施設ひまわり園（児童発達支援 指定管理）

■ 令和6年度の実施総括（現場責任者 丸山尚美）

令和6年度は4つのコース(2歳児、後期に向けての待機、園・療育併用午前、園併用午後)で療育を行った。利用者のニーズの変化により午前の園併用(年少以上児)の利用希望児が増えている。

児童発達相談センターが見学調整や同行、福祉サービスを受けるまでに必要な一連の流れを担ってくれることで役割分担をし、連携を密に行ってきた。見学はするものの利用にはつながらない児が以前より増えた。最近では病院からの紹介で見学、利用につながるケースが多い。保育所等訪問支援では園と保護者、ひまわり園の三者で子どもの課題や支援の方向性を確認し、共有することができた。

ひまわり園		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
児童発達支援	人	260	307	296	301	260	253	324	345	298	326	303	324	3597
保育所等訪問支援	人	6	17	19	14	10	15	19	14	15	13	21	20	183
計	人	266	324	315	315	270	268	343	359	313	339	324	344	3780

令和5年度 延べ利用人数 3517人(児発) 165人(訪問) 令和6年度 延べ利用人数 3597人(児発) 183人(訪問)

令和5年度収支増減額 6,172,127円

令和6年度収支増減額 4,775,689円

■ 今年度の成果

- ・ 2歳児のAコースは週3日又は2日通えるコース設定としたが、前期は週3日通園を希望される児はおらず。定員をわることはなかったが、2歳児の利用希望児は減っている。
- ・ プレ午後コースとしてEコースを新たに設定した。午前コースに長く通っている親子や午後コースに移行する前の練習の場としても経験を積むことができた。
- ・ 家族支援加算を使って園での姿を確認したり、併用先の園の先生にひまわり園での子どもの姿を見てもらい、課題共有ができた。また必要に応じて保育所等訪問支援につなぐようにした。
- ・ 午後コースはトークンを用いることで保護者はより意識して子どもを褒めるようになり、子どもも褒められたいので頑張る姿が見られ、良い循環が定着しつつある。継続して通っている親子が多いので、活動内容に変化を入れながら来てよかった、楽しいと思える工夫をしている。
- ・ 保育所等訪問支援事業は、限られた訪問支援員できめ細やかな支援を維持・継続している。ティーチャーズトレーニングなどの勉強会も提供し、子どもに関わる先生方が同じ方向性を持って関わることができるように支援してきた。

■ 事業所の課題

- ・ 働く母が増え、子どもに対して療育の必要性を感じてはいるものの、療育に通うことが保育園就園のための就労条件の一部にはあたらないため療育を欠席する日数が増えている。仕事も大切だが、ひまわり園に通って学びがあった、通って良かったと感じられるような工夫が必要。
- ・ 業務内容が増え残業がある。今後も安定して長く働き続けるためにも、様々な視点での業務改善、スタッフ一人ひとりの意識改革が求められる。
- ・ 保育所等訪問支援事業では利用を希望される方が多いが、訪問支援員が児童発達支援事業も兼務しているため訪問できる件数に限りがある。人材の確保と育成が課題となっている。